▲△▲　国境稜線・朝日連峰　（個人山行）▲△▲

赤澤　東洋

◎期日：2020 年 9 月 15～16 日
◎メンバー：単独

2019 年 6 月喜寿を迎え最終コーナーを回った事を実感、しみじみとあと何年動けるかに心揺れる毎日である。登りそびれた山は数多く、動ける内に行っておきたいのだが、未踏の山への憧憬もさることながら、しばらくご無沙汰している懐かしき山への再訪も捨てがたいものがあり、残された時間の少なさに愕然とするばかりの日々。

中でも近くて良き山谷川連峰は私にとって最も馴染みのある山､90 年代はガイドブックに紹介されている登山コースは全て歩くぞと目標定めて足繁く通ったもので、特に思い入れ深い主脈縦走と土合起点の馬蹄型縦走を元気な内にもう一度挑む事に拘った。

まずは 2 度辿った事のある谷川岳～平標山の主脈縦走踏破を目指しこれは 2019 年夏無事完遂した。次は土合起点の馬蹄型周遊コースだが、本来なら土合から白毛門→朝日岳→蓬峠→茂倉岳→谷川岳→土合と繋げなければならないのだが、白毛門へのキツイ登りを回避し、2 回に分け白毛門は下りに使う事にし、今年 7 月初めに西黒尾根～オキの耳～蓬峠～土合と周回コースを辿り 1 日で無事完歩した。そして最後に残ったのが国境稜線・朝日岳～白毛門の縦走で、天気を睨みながら機会を窺っていたら偶然にも西山さんも谷川岳馬蹄型を狙っていて 16 日に出るという。天気予報をみると雨マークはなくまあまあのようだ。これは面白いと途中で出会える事を期待して急遽出かける事にする。ルートは 92 年 5 月 2～3 日に歩いた時と同じ土樽駅から朝日岳経由土合までだ。

9 月 15 日（火）朝 5：48 上尾発の高崎線の電車に乗る。コロナ禍でずっと外出を控えていたのでほぼ半年ぶりの電車だった。意外に混んでいて熊谷で漸く座れる。赤城山は中腹以上が雲の中にあり、天気はあまり芳しくない。

高崎、水上と乗り継ぎ 8：46 土樽駅着。1 年ぶりの誰も降りない無人駅、そそくさと身支度整え登山届投函して出発し、魚野川右岸沿いの舗装道路をとぼとぼと行く。向かう国境稜線には白い雲がかかっているがまずまずの天気。蓬沢の砂防堰堤工事中のトラックが何台か通過するだけで人の気配はない。万太郎山への吾策新道、茂倉岳への茂倉新道を右に分け蓬沢沿いに直進するのが蓬新道で神社の参道のような杉並木を抜けると間もなくして蓬沢の河原に出た。

（蓬沢の荒れた河原）

いつもは灌木帯の中の登山道を歩いた筈でその後の台風で荒れてしまったようだ。鉄砲水で流されてきた木の根や大石がゴロゴロする河原歩きは歩き難く、先も分からず慎重にルートを見極める。これは想定外だった。

土樽から 2 時間余で東俣沢出合に到着。1 年前より 40 分程遅れているが、これは寝袋と缶ビール 2 本分荷物が重いせいだろう。ここからいよいよ本格的にジグザグと電光型の登りが始まった。いつもの事ながら荷物のせいもあり調子はイマイチで、中の休み場という少し開けた台地で一呼吸いれる。途中ポツンと雨があり、これはヤバいかと思ったが、今は木の間越しにシシゴヤノ頭も見えて、このまま天気が続いてくれることを願った。

美味しい水の最後の水場を過ぎ 10 分程で千島笹の草原が広がる蓬峠に到着、蓬ヒュッテ前で一休みする。ここまで 5 時間 25 分、昨年は 4 時間 10 分、さらに 10 年前は 3 時間 45 分だったのだから、かなり遅れていて、この差には苦笑するばかり、何となく心が萎えかけ、このまま土合へ下ってしまおうかなどと不埒な考えが頭をよぎったが、西山さんの顔が目に浮かび弱気の虫を追い払う。峠に着いたのを待っていたように武能岳方面から乳白色のガスが流れてきて霧雨も降り出しホワイトアウトの中、気を入れ直し一歩を踏み出した。

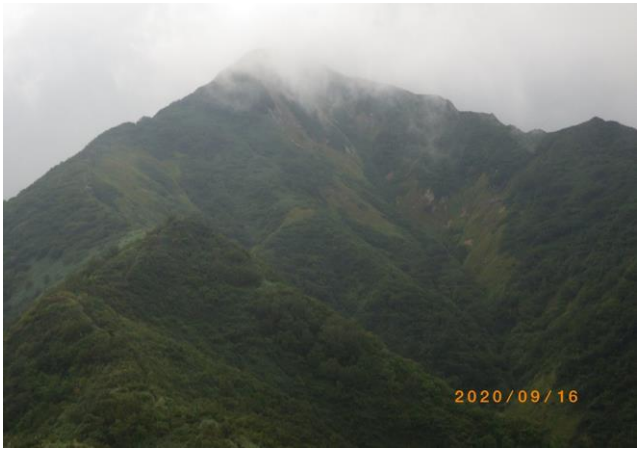
（冬路の頭から清水峠）

幸いに霧雨はすぐ上がり、雨雲は標高 1500㍍前後を境にしているようで、ガスの切れ間から時々南魚沼方面が見え隠れするようになり、16：35 清水峠に着く。土樽から 7 時間 40 分、10 年前は 5 時間 30 分、28 年前の 5 月初め雪の中を登った時は 6 時間 45 分だったのだから情けない話だが老骨の身、歩けただけでもまあヨシとしよう。

避難小屋に相客はおらず、小屋前にテントが一張りあるだけだったが、水場へ行く途中で自転車を押しながら登ってくる若者と出会った。土合から旧国道を来たようだが、水平道路と云われ、平坦で楽そうに思うが実は荒れていて大変な悪路で、よくぞあんな所を自転車で来たものと感心した。巡視小屋前にテントを張った彼は初めての清水峠とのことだった。

この小屋を初めて利用したのは 29 年前、1991 年 11 月中旬の事、登山を始めたばかりの頃で 20㌢程の新雪に足をとられ、土合から蓬峠を経て 8 時間もかかり真っ暗になって這う這うの体で転がり込んだ事を思い出す。今回は 7 回目になるがこじんまりして私の好きな避難小屋である。

16 日、3 時に目が覚める。星が瞬いていたがシリウスもオリオンも確認出来ず。まだ早過ぎるのでゆっくりと準備を進め、4 時 40 分ヘッドランプ点けて朝露の中出発する。目指すジャンクションピークまで約 500㍍の標高差、本日一番の登りとなるが土合から白毛門へのような急登はなく、登山道も明瞭だ。左手檜倉山の上には今にも折れそうな細い月、右下湯檜曽川源流に灯りが一つ見えるのは沢登りの人達だろうか。7 時丁度ジャンクションピーク到着。



（ガスってくる朝日岳）

（ジャンクション・ピークの標識）

ここから巻機山までの国境稜線藪漕ぎ縦走を思い出す。99 年 10 月、単独で挑んだ国内山行では我が最大のエクスペディション、あの時やっておいて本当に良かったと思う。

ここはもう朝日岳の一角、又ガスが流れて視界を閉ざす中、朝日ノ原湿原の木道を行けばじきに頂上

だった。92 年 5 月連休、96 年 7 月上旬、97 年 10 月に次いで 4 度目となる朝日岳、それぞれに思い出があるが、可憐なホソバヒナウスユキソウが満開だった 96 年 7 月がやはり忘れ難い。今日はその株に霧が付き細い葉に水玉を作っていてこれも又風情がある。

（朝日岳頂上）

その先アップダウンのある稜線を大烏帽子、小烏帽子と小ピークを幾つか越え 9 時丁度笠ヶ岳に着き一休み。蒸しパンをもぐもぐしていたら西山さんがひょっこり顔を出した。会えるとしたら白毛門付近だろうと思っていたので、お早い出現に少し驚く。
4 時半に登山口を出たというからここまで凡そ 4 時間半、これは早い。97 年に私が登った時は 55 歳で 5 時間半かかっている。西山さんの健脚ぶりがよく分かるというものだ。

（笠ケ岳山頂にて、西山さん（右）と）

更にまた、こちらは長袖シャツに雨具を着こんでいるのに半袖でシレッとしているのだから恐れ入り谷の鬼子母神様だ。山で知人と会うのは良いもので、しばし歓談と行きたい所だったが、こちらはもう下るだけだが、相手は先のある身、そうそう長居も出来ず朝日岳へと向かう西山さんを見送る。

ここまでくればもう安心、丁度 10 回目となる白毛門山からは飛ぶように駆け下ってとはいかないまでも、それなりに急いで白毛門から 2 時間 35 分で白毛門登山口に下山した。

（白毛門から朝日岳を望む）

かくて拘りの谷川連峰・主脈縦走及び変則ながら馬蹄型縦走を無事終了、次はどこを狙うべきか、鋭意考慮中である。

≪コースタイム≫

15 日＝土樽駅 8：55―11：10 東俣沢出合 11：20―14：20 蓬峠 14：30―15：40 七ッ小屋山―16：35 清水峠・白崩避難小屋泊

16 日＝清水峠 4：40―7：00 ジャンクションピーク 7：10―7：40 朝日岳―9：00 笠ヶ岳 9：25―10：25 白毛門山―13：15 土合駅

（了）